長洲町立長洲小学校　校長便り　No.76

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年3月3日(金)

「　自信は経験から生まれる　経験は失敗から始まる　」　お世話になった校長先生の言葉

失敗を恐れていては、自信は生まれませんなぁ…

卒業前雑感　集団の動き

子供達は、これから多くの仲間と出会い、切磋琢磨して人格を磨き、立派な大人になろうと努力していきます。その中で、悩み苦しみながらも壁を乗り越えていく力を身につけていくのも、青春時代ならではの経験といって良いかもしれません。そのような営みの中で、私達大人は子供達の健やかな成長を願って支援していくのですが、私は対個人のサポートと共に、集団をコントロールすることも支援の一つだと捉えています。「学級経営」という言葉を聞いたことがありますでしょうか？　企業の経営というようなことではありません。私達教師が学級をコントロールしていくことなのですが、私はこの学級経営にグループダイナミクス（集団の力学）の考え方を重ねて考えるようにしています。グループダイナミクス、ある本にはこうあります。

「人間は、集団になったとき、個人がばらばらに行動するのではなく、集団ゆえに生まれる動力に従って行動する。これは、個人が集団から影響を受けるということであり、逆に集団に影響を与えるということでもある。」

「集団精神療法や精神保健福祉援助などで用いられる用語で、グループの力動とも訳されます。複数の援助の対象者で一つのグループを作って、そこにセラピストや支援者が関わるのが、集団精神療法や、集団援助活動です。そうすることにより、支援者と支援を受ける人が、一対一で面接する場合と異なる、グループ活動独特の、メンバー同士の相互作用が起こります。それをグループダイナミクス、と呼びます。」

更に具体的なグループダイナミクスの一例を説明するならば、私たちも経験があるものでは、学生時代に先生から勧められてもやらないようなこと、または、親から勧められてもやらないようなことでも、友達から勧められたらやる、というような心理だと思います。グループの仲間同士で起こる、励まし、助言、など様々な相互作用や動きをグループダイナミクスと言います。

グループダイナミクスの視点で学級を見ると、色々なことが見えてきます。影響力のある子、みんなを和ませてくれる子、リーダーシップを発揮してくれる子、いい考えをもっていても意見を出せない子、周りに流されてしまう子…。色々な子が互いに影響し合って集団を形成し、その集団が微妙に干渉し合うのです。この干渉が良い方向へ働くと、学級集団は支持的共感的協力的な集団になっていきます。悪い方向へ働くと、排他的な雰囲気が漂い、集団への所属に対する喜びが低くなっていきます。女子がグループを作って、互いのグループが干渉し合い、くっついたり離れたりするのがその例です。そうならないように、担任は意図的に集団に働きかけたりするのです。私達は毎年違う子供達や集団と出会い、マニュアル無しの真剣勝負には緊張感もありますが、遣り甲斐も大きいです。中学校に進学するにあたって、「赤信号、みんなで渡れば怖くない」というように、悪い方向へ、安易な方向へと流されないように、中学3年間を過ごしてもらいたいものです。

シリーズ「自分を語る」#76

前の年に私が担任させて頂いた学級は3年生1学級39人でした。その子供達は17㎞の強歩会を経験して、新たな目標に向けて昨年の夏休み明けから10周のランニングを継続していたのです。4年生になったその時の子供達は、新しい担任の先生と共に活動を継続していました。新しい担任の先生は玉名町小学校で一緒にお仕事をさせて頂いた先生で、その時は既に「ナイトハイク一緒にやるよ！」と密約が成立しており、私は5年生に対して「4年生に負けるのか？」なんて発破をかけることができましたし、4年生は4年生で、担任の先生が「毎朝ちゃんと走っていないと、ナイトハイク参加させてもらえんよ。俺が頼み込んでやるけん、澤田先生には。」という具合に、うまいこと学年の連携がとれ、当時の伊倉小学校を引っ張っていく位の意気込みがあったようでした。

かくして、4・5年生合同のナイトハイク開催に向けて実働していきます。この時行っていた朝のランニング10周は、少なくとも私が伊倉小学校にいる間、複数学年が取り組んでいたように思います。

いよいよ夏を迎えました。4年生からの強い希望により、5年生と同じ距離を一緒に歩くことになりました。出発はJR上熊本駅です。そこから田崎市場を抜け、いわゆる河内線を通り伊倉小学校まで歩くのです。4年生の頑張りに奮起した5年生は、朝のランニングを10周以上と設定し、走る子で30周という頑張りようでした。

さぁ、出発。快調に歩を進める伊倉小学校4・5年生です。子供達の様子もさることながら、この時の保護者の皆様の気合の入れようは凄いものでした。事前のトレーニング、ランニング用のウェア、テーピング、実施前に整骨院に通った人もいました。何かしらの達成感を味わいたかったのだろうと今になって思います。よくよく考えてみると、大人になって一人で33㎞の距離をナイトハイクだなんて普通はやりません。子供達が頑張るから、同世代が頑張るから、サポートしてくれる人がいるから、応援してくれる人がいるから頑張れるのです。そのことが何となく伝わっていたような気がします。この年も多くの教え子達が手伝いに来てくれました。玉名町小学校時代にはまだ高校生だった教え子達が、大学生、社会人となって手伝いに来てくれているのでした。そしてこの子たちのお陰で、私のことについて、後に「プラスになる」ような話を保護者の皆さんにしてくれていたようでした。これは、後々本当に私にとって有難い事へと繋がっていきます。

ナイトハイクは通常、後半どうしてもペースが落ちるので、前半である程度の距離を稼がないといけません。その時も、20㎞ほどを私が先頭で引っ張りました。そこからが、ドラマの始まりです。班行動が始まると途端に「甘え」「痛み」「眠気」が出てきます。途中のコンビニには班の意思で寄って良いことになっているのですが、その回数が極端に増えます。（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）